

鉱業博物館だより

2011年4月
準備号



国立大学法人
秋田大学大学院工学資源学研究科附属鉱業博物館

〒010-8502 秋田市手形字大沢 28 番地の 2
TEL 018-889-2461 FAX 018-889-2465
e-mail w3admin@kuroko.mus.akita-u.ac.jp
ホームページ http://www.mus.akita-u.ac.jp/

はじめに

秋田大学大学院工学資源学研究科附属鉱業博物館長

西谷 忠師

秋田大学大学院工学資源学研究科附属鉱業博物館の前身は明治43年(1910年)秋田鉱山専門学校の列品室です。昭和16年(1941年)火災のため列品室の資料がすべて失われましたが、昭和26年(1951年)「鉱山博物館」として復活しました。その後、昭和36年(1961年)鉱山学部50周年記念事業として「鉱業博物館」が建設され、平成6年(1994年)全面的な改修を行って新たな鉱業博物館に生まれ変わりました。鉱業博物館が独自に集めた標本と寄贈された標本を含めて、現在所蔵している資料の数は登録された標本だけでも15,000点以上となっています。所蔵している標本は種類、数、大きさとも国内有数です。大学の授業を補うための実物に触れる場として、あるいは小・中学生の学習の場として博物館は無くてはならない存在になっています。生涯学習が注目されている今日、鉱業博物館の果たす役割はますます大きくなっていると言えるでしょう。

これまで鉱業博物館は冊子「鑛業博物館」を毎年発行してきました。この冊子は鉱業博物館後援会が発行していましたが、鉱業博物館後援会が解散となったことに伴ってこの冊子も廃止せざるを得ない状況になりました。「鑛業博物館」は鉱業博物館の活動状況を示す良い機会にもなっていました。鉱業博物館の活動を広く知ってもらうためにも、広報誌を発行して博物館としての役割を認識してもらおうと考えています。広報誌の名前を「鉱業博物館だより」として鉱業博物館の活動を広く伝えたいと思っていますのでどうぞよろしくお願いいたします。

◆ 目次 ◆

はじめに

秋田大学大学院工学資源学研究科附属鉱業博物館長 西谷 忠師	1
平成22年度活動報告	
前期企画展「北投石の真実」	2
後期企画展「情報をつなぐ 情報でつなぐ」	3
ジュニアサイエンススクール	4
市民開放講座/無料開放/サイエンスボランティアの活動	6
平成22年度入館者数/博物館実習生受け入れ数	7
平成22年度寄贈資料/ご利用案内	8

平成22年度企画展

前期企画展

北投石の真実 —知られざる玉川温泉と北投石のヒミツ—

開催期間 平成22年7月31日(土)～9月26日(日)

◆市民向け講演会◆

開催日 平成22年9月4日(土) 13:30～14:30

講師 松葉谷 治 先生(秋田大学名誉教授)

演題 玉川温泉と北投石



2010年7月31日から9月26日に展示棟3階において企画展「北投石の真実」を開催し、台湾の北投温泉と秋田県の玉川温泉からしか産出しない珍しい鉱物の一種である北投石にスポットライトを当てその秘密に迫りました。

本企画展ではまず、玉川温泉と台湾の北投温泉という北投石の2つの産地を紹介し、玉川温泉の熱水系の研究の概要と意義についてまとめました。北投石発見と命名の経緯を古い学術論文で辿り、さらに北投石の組織や成分、それに関連して発現する放射能などの特異な性質を紹介いたしました。



解説パネルのほか台湾産と秋田産両方の北投石や北投石に関連の深い硫酸鉛・天青石・重晶石などの鉱物標本や北投石の放射線感光写真および100年前の地質学雑誌原本なども展示いたしました。

また、9月4日には秋田大学名誉教授の松葉谷治先生を講師に招き「玉川温泉と北投石」という演題で市民向け講演会を開催いたしました(写真/上)。玉川温泉の地質や温泉水の特徴、北投石から放出される放射線や自然放射線について説明していただき、講演後には活発な質疑応答が行われました。市民向け講演会終了後、高校生以下の生徒・児童を対象に子供科学教室「博物館内外いろいろな場所の放射線を測ってみよう!」を開催しました。松葉谷先生と千田恵吾学芸員の指導で、簡易放射線測定器『はかるくん』を使ってさまざまな岩石や試薬の放射線量を測定する体験を参加者にしてもらいました(写真/下)。



企画展期間中の来館者数は1,431人、市民向け講演会では89名の方が聴講されました。

後期企画展

情報をつなぐ、情報でつなぐ ～未来へと繋げる技術のカタチ～

開催期間 平成22年11月3日(水)～12月12日(日)

◆市民向け講演会◆

開催日 平成22年11月27日(土) 14:00～

講師 大力修先生

(新日鉄ソリューションズ株式会社フェロー /
秋田大学客員教授)

演題 情報の世紀を生きる



2010年11月3日から12月12日に展示棟3階において企画展「情報をつなぐ、情報でつなぐ～未来へと繋げる技術のカタチ～」を開催いたしました。本企画展では秋田大学大学院工学資源研究科情報工学科の諸先生が中心となって広く社会で活用されている情報技術や通信技術に関する研究の紹介をいたしました。

モーションキャプチャを利用して民族芸能である舞踊をデータ化し次世代に継承する手法の研究や自宅から離れた圃場や水田の情報を取得するネットワークシステムを作り農業を支援する研究、唇を用いた生体情報に関する研究(写真/右)など様々な研究が紹介されました。

また、11月27日には市民向け講演会を開催し、大力修先生に「情報の世紀を生きる」という演題で講演していただきました。情報技術の歴史と今現在情報技術がカーナビ・インターネット・医療などの日常生活にまで広く及んでいることについてお話された後、情報化が進むことで生じる様々なデメリットや問題点について言及され、個人情報保護や情報技術者の倫理の重要性などを述べられました(写真/左)。

企画展期間中の来館者数は495人、市民向け講演会では71名の方が聴講されました。



平成22年度 ジュニアサイエンススクール 「鉱物採集をしよう」

開催日：平成22年8月3日（火）～8月4日（水）

講師：水田 敏夫 教授（秋田大学国際資源学研究教育センター長）

今井 亮 教授（秋田大学大学院工学資源学研究科地球資源学専攻）

西川 治 専任講師（秋田大学大学院工学資源学研究科附属鉱業博物館）



平成22年度ジュニアサイエンススクール「鉱物を採集しよう」を、8月3～4日の二日間、県内外の小学校5・6年生30名の参加を得て開催いたしました。初日に大型バスで岩手県和賀仙人下遠平鉱床跡地へ出かけ鉱物採集をし、翌日博物館講堂にて標本のクリーニングと学習会を行いました。当日の様様をタイムスケジュールに沿ってご紹介いたします。

● 1日目

早朝、空が厚い雲に覆われており雨が懸念されたが、予定どおり午前9時に目的地である和賀仙人鉱山跡地に向かった。採集地は急勾配の坂道や石がごろごろした足場の悪い川原の先にあったため、子どもたちの安全確保に務めた。鉱物採集の仕方や安全確認について話をした後、一同で作業に取り掛かった。ズリ表面に見える鉱物のほか、ズリの土や泥をザルに入れて川で洗うことによって見つかったり石を割ることによってその中から見つかったりする鉱物もあり、宝さがしのような感覚で取り組む子供達が多く見受けられた。雨は降らなかったものの猛暑に見舞われ子供たちが熱中症になることが危惧されたため、頻りに水分補給を促しながらの作業となった。大きな怪我や事故もなく、全ての子どもたちが数多くの鉱物を手に満足顔で帰路につき午後4時、1日目の学習を終えた。



● 2日目

博物館講堂にて前日採集した鉱物のクリーニングの仕方や見分け方の学習会を行った。子どもたちは鉱物の色・条痕・光沢・硬度・比重などの特徴を観察し自分で鉱物名を調べ、諸先生方に鑑定してもらったものを標本箱に入れラベルを付して整理する作業を行った。主に、黄鉄鉱・柘榴石・赤鉄鉱・石英・方解石・磁鉄鉱・大理石などの鉱物が標本箱に並べられた。例年、2日目の学習会では集中力を切らし、飽きてしまう子供が数名いるが今回のスクールでは、全ての子供たちが意欲的に学習に取り組んでいた。鉱物を自分で採集したこと、それを観察し名前を調べ整理するという一連の体験に子どもたちは大いに達成感を感じたようだった。



このイベントの開催にあたり博物館職員のほかに博物館実習生15名と秋田大学大学院生2名に運営スタッフとして加わってもらいました。学生たちは、参加児童のグループ分けやしおりの作成などの準備段階からこのイベントに関わり、当日は自分の担当グループを引率して様々な指示を出したり、子供たちでは手に負えない力仕事をしたり、顕微鏡の操作を手ほどきしたりするなど、子どもたちの指導や世話を担いました。博物館実習生の中からは「博物館の裏側や運営について学ぶことができた」「学芸員という仕事の大変さや必要な技能の多さを知ることが出来た。」「予想以上にやる事が多く驚いた。」などという声が聞かれ、苦労も多かったと思いますが彼らにとって有意義な実習になったと思われまます。

最後に、ジュニアサイエンススクール成功のためにご尽力してくださった先生方および学生スタッフの皆さんにお礼申し上げます。

タイムスケジュール

- 第1日目(8月3日)
- 8:30 鉱業博物館集合
 - 8:40 開講式
 - 9:00 和賀仙人へバスで出発
 - 10:30 鉱物採集
 - 12:00 昼食
 - 13:00 鉱物採集
 - 14:00 学習終了、現地出発
 - 16:00 鉱業博物館到着・解散
- 第2日目(8月4日)
- 9:00 博物館集合、講堂にて学習
 - 12:00 昼食・休憩
 - 13:00 学習とまとめ
 - 15:00 修了証書授与、閉講式
 - 16:00 終了、解散



平成22年度市民開放講座

博物館研究員による平成22年度市民開放講座を以下のとおり5回開催し、一般の市民の方々に広く学習機会を提供いたしました。

	講習日	テーマと担当講師
第1回	5月29日(土)	地熱の発電利用 高島 勲 研究員(秋田大学名誉教授)
第2回	6月5日(土)	地熱の熱・多目的利用 高島 勲 研究員(秋田大学名誉教授)
第3回	8月25日(水)	インドネシア気象庁の地震・津波研究の紹介 高島 勲 研究員(秋田大学名誉教授)
第4回	3月2日(水)	雪寒地における暮しの熱問題 菅原 征洋 研究員(秋田大学名誉教授)
第5回	3月19日(土)	鉄の腐食防止に形態 金児 紘征 研究員(秋田大学客員教授)

無料開放

平成22年度は下記のとおり7日間無料開放日を設けました。大学の行事がある場合や文部科学省や一般社団法人日本地質学会の呼びかけに応じる形で実施いたしました。

◆実施日と実施理由◆

- 4月17日・18日【科学技術週間 4/13~19】
- 5月9日・10日【地質の日 5/10】
- 8月20日【秋田大学子ども見学デー】
- 10月23日【オープンキャンパス】
- 11月3日【教育文化週間 11/1~7】



サイエンスボランティアから解説を聞く見学者

サイエンスボランティアの活動

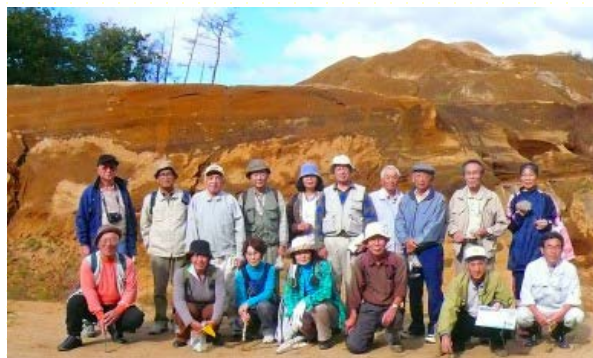
平成22年度は30名の方々からボランティア登録をしていただきました。展示標本や資料に対する理解を深め、「館内案内」がスムーズに行えるように年度初めにはサイエンスボランティア講習会を下表のとおり開催しました。

◆サイエンスボランティア講習会◆

講習日	テーマと担当講師
5月10日(月)	地質時代の定義とは(佐藤時幸 先生)
5月21日(金)	1階中央ホール重力点、2階展示室物理探査機器について(西谷忠師 館長)
5月26日(水)	荒川鉱山を例とした鉱山開発の基本設備の解説 —博物館の模型も利用して説明—(今井忠男 先生)
6月1日(水)	鉱業博物館の鉱物と鉱石(西川治 専任講師)

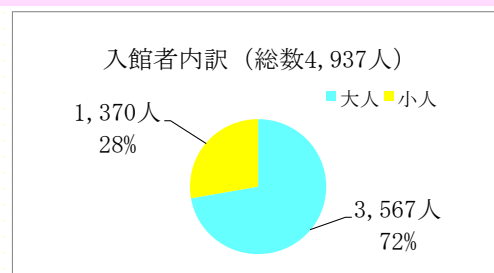
◆サイエンスボランティア研修会◆

10月6日(水)、サイエンスボランティア研修会を開催しました。今回は「洞爺火山灰を追跡する」というテーマで白石建雄先生(鉱業博物館研究員/秋田大学名誉教授)にご指導いただき、男鹿半島安田海岸・能代市・三種町森岳の巡検を行いました(写真右/能代市にて撮影)。

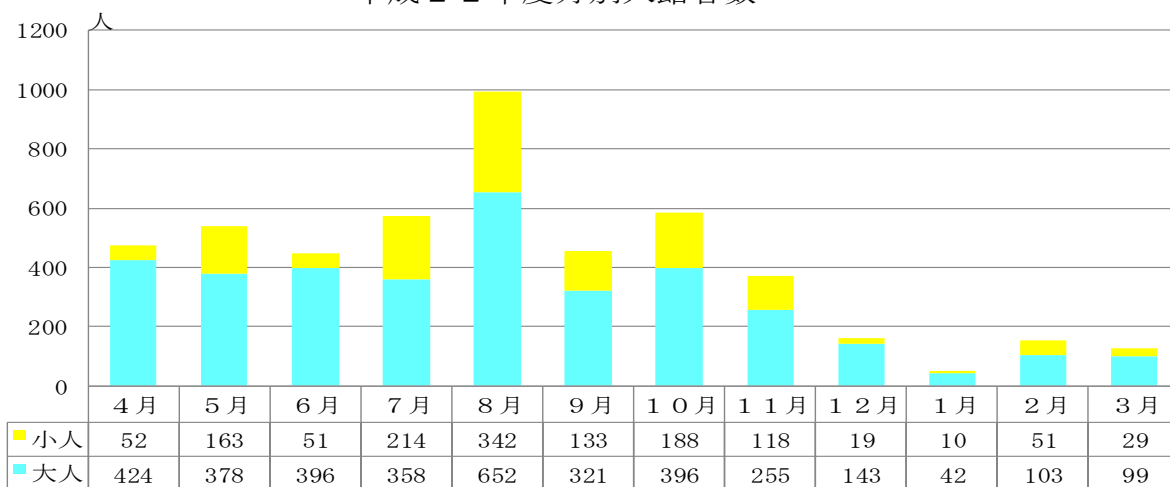


平成22年度入館者数

平成22年度入館者総数は4,937人でした。そのうち72%(3,567人)が大人、約28%(1,370人)が子供の入館者という結果でした。豪雪の影響もあり、今冬は入館者数が伸び悩みました。



平成22年度月別入館者数



博物館実習単位取得者

平成22年度に当館で実施した博物館実習の単位取得者数は18名でした。今年度は学外からの受講申し込みはありませんでした。実習生の所属学部および課程・学科の内訳は右記のとおりです。

平成23年度も当館では博物館実習生の受入れを行う予定です

～博物館実習生の学部および課程・学科別内訳～

学部	課程・学科	人数
教育文化学部	学校教育課程	3
	地域科学課程	11
	国際言語文化課程	2
	人間環境課程	1
工学資源学部	地球資源学科	1
計		18

平成22年度寄贈資料

以下の方々に、資料等を寄贈して頂きました。謹んでお礼申し上げます。(寄贈者の敬称略)

寄贈者名	資料名
五味 篤	四面安銅鉱・石英(産地 ペルー) 他6点
豊 遙秋	鉱物標本 192点
古河ロックドリル(株)	削岩機(油圧ドリフタ HD210) 1基
石油資源開発(株)	坑口装置(クリスマスツリー)、原油(秋田)、玄武岩(石油貯留層コア 産地 秋田)、石油ビット
国際石油開発帝石(株)	石油櫓 2点
菊井 善和	スパーク石(産地 岡山県) ほか6点
山内 祥行	金鉱(産地 タイ) 1点

ご利用案内

●入館料

大人：個人 250円
 団体(30名以上)190円

高校生以下：無料

●開館時間：9時から16時

●休館日：年末年始
 (12月26日～翌年1月5日)

●アクセス：秋田駅前中央交通バス乗場4番線 鉱業博物館入口下車 徒歩5分

●その他：館内の案内を希望される方は事前(1週間位前まで)にお電話ください。鉱業博物館のホームページもご覧下さい。

